

第6章 創造的な未来を切り拓く子ども・若者の育成の推進

第6章 創造的な未来を切り拓く子ども・若者の育成の推進

第1節 グローバル社会で活躍する人財の育成

1 国際交流・国際理解教育の推進

(1) 海外派遣状況

ア 内閣府青年国際交流事業

この事業は、日本や各国を代表する青年が、共に国際的課題についてのディスカッション等の活動を行うことを通じ、国際的視野を広げ、国際協調の精神と実践力を向上させ、リーダーの育成を目指すことを目的に内閣府が毎年度実施しているもので、以下に述べる5つの事業で構成されている。

各事業に参加する青年については、各都道府県で参加申し込みを受け付けた後、各都道府県での中間選考を経て内閣府に推薦され、最終選考を兼ねた事前研修の結果を踏まえて、最終的に各事業への参加者が決定されている。なお、令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、各事業は中止となった。また、令和3年度については、内閣府が窓口となって募集が行われ、オンライン交流が実施された。

(ア) 国際社会青年育成事業

昭和、平成の皇太子殿下の御成婚記念事業を、2019年のお代替わりを契機にして発展させた事業であり、2か国に日本青年を派遣している。訪問国では、地元青年との社会課題に関するディスカッション、施設訪問及びホームステイを行う。また、帰国後は派遣先から招へいした外国青年と国際青年交流会議に参加する。

(イ) 日本・中国青年親善交流事業

1978年の日中平和友好条約が締結されたことを記念し、1979年から開始された事業で、日本・中国両政府が共同で実施している。文化紹介やホームステイを通じた交流とともに、ビジネス環境・就職・ボランティアの状況などについて、両国の共通点や相違点などを掘り下げて考える機会ともなる大学生との意見交換、グローバルに飛躍をとげる中国の先進企業訪問、起業をめぐるビジネス制度等に関連する施設の訪問等を行う。

(ウ) 日本・韓国青年親善交流事業

1984年の日韓両国首脳会談における共同声明の趣旨を踏まえ、1987年から開始された事業で、日本・韓国両政府が共同で実施している。文化紹介やホームステイを通じた交流、地球環境、文化、教育、社会福祉等の各種施設、先進企業の訪問やディスカッション等を行う。これらを通じて、日韓関係の将来に向けたありようについて踏み込んで考え、どのような領域で青年たちが東アジア地域の発展に貢献できるか考える。また、日本に招へいした韓国青年との合宿文化交流会等を行う。

(エ) 「東南アジア青年の船」事業

1974年に開始したわが国とASEAN諸国との共同事業で、ASEAN10か国の青年と船内等で共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流を行っている。東南アジア各国から選抜された青年とのネットワークを構築するとともに、アジア地域の未来を担う人材の育成を図る。

(カ) 「世界青年の船」事業

1967年度開始の「明治百年事業」にルーツがある事業で、毎年異なる世界10か国から集まった外国青年と船内等で共同生活をしながら、ディスカッションや文化交流を行っている。プロジェクトマネジメントや異文化対応を、理論・実践の両面で強化することに重点をおいた事業を行う。

(カ) 地域課題対応人材育成事業「地域コアリーダープログラム」

高齢者、障害者、青少年の3分野に特化した社会活動経験者向けの事業である。各国で同じ分野で働く同世代の若者との交流や政府機関・関連団体及び施設の訪問や意見交換等を通じて、人的ネットワークを形成し、社会課題解決能力を高める活動を行う。

第2-6-1表 青森県からの内閣府青年国際交流事業派遣状況

(単位：人)

事業名	年度	平成27年度 までの累計	28	29	30	令和元	2	3	合計
青年海外派遣 国際社会青年育成 日本・中国青年親善交流 日本・韓国青年親善交流		68	—	2	1	2	中止	—	73
東南アジア青年の船		9	/	/	—	—	中止	—	9
世界青年の船		21	—	—	1	—	中止	—	22
次世代グローバルリーダー		0	1	—	/	/	/	/	1
地域課題対応人材育成		0	—	—	—	—	中止	—	0
計		98	1	2	2	2	/	—	105

資料：青少年・男女共同参画課

イ 青年農業者の海外研修

公益社団法人国際農業者交流協会が行う、20代の農業青年を対象としたアメリカ、ヨーロッパでの長期研修プログラムへの参加推薦により、青年農業者の農業技術や経営管理能力の向上、国際的視野の拡大を図っている。

第2-6-2表 青森県からの青年農業者海外研修推薦状況

(単位：人)

区分	年度	H26	27	28	29	30	R1	R2
アメリカ		—	1	—	—	—	—	1
オランダ		—	—	—	—	1	—	—
計		—	1	—	—	1	—	1

資料：構造政策課

(2) 外国青年受入状況

ア 外国青年招致事業

県内における外国語教育の充実を図るとともに、地域レベルでの国際交流の発展を図るため、総務省、文部科学省、外務省及び一般財団法人自治体国際化協会の協力の下に「語学指導等を行う外国青年招致事業」を実施しており、本県の令和元年度の受入状況は次のとおりである。(令和2年度以降は出入国制限等により計画どおりの実施とならず公表困難。)

(ア) 日本人教師の外国語授業の助手として職務に従事する「外国語指導助手 (ALT)」150人を招致し、主に教育委員会または私立学校に配置した。(第2-6-3・4表)

- (イ) 外国からの訪問客の接遇、外国語刊行物の翻訳・監修、イベント等の通訳などの職務に従事する「国際交流員（C I R）」16人をアメリカ、イギリス、オーストラリア、ドイツ、モンゴル、韓国及び中国の各国から招致し、県及び市町村に配置した。（第2-6-3・4表）

なお、昭和62年度からの招致人員は延べ3,293人である。（第2-6-4表）

第2-6-3表 語学指導等を行う外国青年招致人員内訳(令和元年7月1日現在)
 (国別) (単位:人)

区 分	外国語指導 助手 (ALT)	国際交流員 (C I R)	計
ア メ リ カ 合 衆 国	122	6	128
イ ギ リ ス	6	2	8
オーストラリア連邦	5	1	6
ニュージーランド	1		1
カ ナ ダ	11		11
ア イ ル ラ ン ド	1		1
ド イ ツ 連 邦 共 和 国		1	1
中 華 人 民 共 和 国		2	2
大 韓 民 国		3	3
ロ シ ア 連 邦	1		1
モ ン ゴ ル 国		1	1
フ ィ リ ピ ン 共 和 国	2		2
トリニダード・トバゴ共和国	1		1
計	150	16	166

資料:誘客交流課

第2-6-4表 語学指導等を行う外国青年招致事業外国青年招致数（令和元年7月1日現在）

（単位：人）

団体名	平成31（令和元）年度			平成30年度			昭和62年度～平成29年度				
	CIR	ALT	計	CIR	ALT	計	CIR	専任PA	ALT	SEA※	計
青森県	4		4	4		4	118				118
教育庁		29	29		29	29		2	880	5	887
小計	4	29	33	4	29	33	118	2	880	5	1,005
青森市	3	17	20	3	15	18	62		175		237
弘前市	1	16	17	1	16	17	5		123		128
八戸市	1	17	18	1	17	18	21		203		224
黒石市	1	4	5		3	3			42		42
五所川原市		3	3		3	3			68		68
十和田市		8	8		8	8	2		74		76
三沢市		2	2		2	2			30		30
むつ市	1	5	6	1	4	5	14		87		101
つがる市	1	3	4	1	3	4	31		84		115
平川市		2	2		2	2			52		52
平内町		2	2		2	2			31		31
今別町	1	1	2	1	1	2	1		22		23
蓬田村		1	1		1	1			16		16
外ヶ浜町		2	2		2	2			28		28
鱒ヶ沢町		3	3		3	3	13		22		35
深浦町		2	2		2	2	5		28		33
西目屋村											
藤崎町		1	1		1	1			26		26
大鱒町		1	1		1	1			23		23
田舎館村		1	1		1	1	6		3		9
板柳町		1	1		1	1	21		28		49
鶴田町	1	1	2	1	1	2	26		30		56
中泊町		2	2		2	2			53		53
野辺地町									7		7
七戸町		2	2		2	2	9		35		44
六戸町		3	3		3	3	16		6		22
横浜町		2	2		2	2			10		10
東北町		2	2		2	2			19		19
おいらせ町		3	3		3	3			12		12
六ヶ所村	2		2	2		2	30		24		54
大間町									14		14
東通村									5		5
風間浦村		1	1		1	1			16		16
佐井村		1	1		1	1			13		13
三戸町		1	1		1	1			37		37
五戸町		3	3		3	3			59		59
田子町		1	1		1	1			30		30
南部町									52		52
階上町		2	2		2	2			25		25
新郷村									6		6
中部上北広域事業組合		1	1		1	1			29		29
東部上北教育研究協議会									48		48
市町村計	12	117	129	11	113	124	262		1,695		1,957
私立学校		4	4		3	3			5		5
県計	16	150	166	15	145	160	380	2	2,580	5	2,967

（注）※はスポーツ国際交流員

資料：誘客交流課

(3) その他

ア JICA海外協力隊

JICA海外協力隊は、独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施しているボランティア事業の一つで、開発途上国の人々のために、自分の持っている技術や経験を生かしたいという強い意欲を持った青年を派遣する事業である。

本事業の昭和40年発足以来、本県からは、世界74ヶ国で459人の派遣実績がある。（令和3年10月1日現在）（第2-6-5表）

- (ア) 対象国：アジア、アフリカ、中南米、大洋州、中東、欧州の約90か国
- (イ) 活動分野と職種：計画・行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業・観光、人的資源、保健・医療、社会福祉の9分野、約120職種
- (ウ) 派遣期間：原則として2年間
- (エ) 応募資格：満20歳から満69歳までの日本国籍を有する者
- (オ) 待遇：現地生活費、往復渡航費等は国際協力機構の負担

イ 日系社会青年ボランティア

日系社会青年ボランティアは、中南米の日系人社会の一層の発展を図るため、独立行政法人国際協力機構（JICA）が満20歳から満69歳までの青年をボランティアとして派遣する事業である。昭和60年発足以来、本県からは、世界3ヶ国で10人の派遣実績がある。（令和3年10月1日現在）

ウ 三沢基地内大学県民就学推進事業

三沢基地内大学県民就学推進事業は、青森県の発展に貢献する国際性に富む有為な人材を育成するため、県内に居ながら三沢米軍基地内にあるアメリカの大学等（メリーランド大学、トロイ大学院）への就学を希望する県民を対象としており、これまでの就学者数の累計は、令和3年4月1日現在で567人となっている。

(4) 市町村の青少年国際交流状況

青少年の国際交流事業は、各市町村においても積極的に取り組む姿勢をもっており、継続的あるいは記念事業としての海外派遣事業や、相互交流を推進する海外青少年の受入事業を積極的に推進している。平成30年度の実施状況は第2-6-6表のとおりである。

第2-6-6表 令和2年度各市町村における青少年国際交流の実施状況

市町村名	担当部署	事業名	実施時期	対象国	事業概要	実績数値
			(期間)	(対象地域)		
青森市	経済部地域スポーツ課オリンピック・パラリンピック推進室	本市とタジキスタン共和国の大学生によるビデオメッセージ交換	R2.12~	タジキスタン共和国	本市とタジキスタン共和国の大学生同士による学生制作のビデオメッセージ交換を実施し、お互いの観光地や食べ物などの魅力を紹介。	参加27名 ・タジク人学生14名 ・市内大学生13名
青森市	経済部地域スポーツ課オリンピック・パラリンピック推進室	タジキスタン共和国の学生とのオンラインワークショップ	R3.1.30	タジキスタン共和国	タジキスタンの方々とはオンラインでつなぎ、ねぶた師を講師としたねぶたの技法を用いた灯ろう制作ワークショップを実施。本市の会場ではビデオメッセージ交換に参加した学生も参加し、お互いの完成品紹介等を実施。	参加21名 ・タジク人9名 ・市内大学生12名
青森市	教育委員会事務局指導課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致13名
青森市	教育委員会事務局指導課	国際交流員設置事業(教育委員会設置分)	通年	英語圏	地域の国際化推進のため、国際交流員を配置し、通訳・翻訳、国際交流事業の企画立案、民間団体等が主催する国際交流事業への支援などを行った。	招致1名
青森市	教育委員会事務局指導課	友好交流推進事業	R3.3	ハンガリー(ケチケメート)	交流指定校であるセーチェニヴァーロシ小中学校(ケチケメート市)に、本市交流指定校の児童生徒の制作した美術作品(絵画、版画)を送付した。	送付22点
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	市民スクール(中央) ネイティブに学ぶ英会話! ~オリンピックに向けて英会話能力を向上させよう~	R2.12.8 R2.12.15 R2.12.22	英語圏	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数81人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	市民スクール(中央) 気軽に英語レッスン: 聞く力を高めよう!	R3.1.27	英語圏	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数24人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	市民スクール(中央) リラククス英会話教室: くつろいで英語で会話しよう!	R3.2.19	英語圏	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数20人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	市民スクール(中央) ジョシュア先生の楽しい英会話教室	R3.3.5 R3.3.12 R3.3.19	英語圏	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数73人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール キッズアメリカ文化体験「国際交流員に教わる『本場のアメリカンフットボール』」	R2.7.29	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数9人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール キッズ国際交流「英語でコミュニケーション! 『聞くチカラ・話すチカラをつけるHappy English』」	R2.9.27 R2.10.25 R2.12.13 R3.1.31	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数28人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール キッズアメリカ文化体験「国際交流員と一緒に楽しむ『アメリカのトランプゲーム』」	R2.10.11	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数8人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	キッズスクール キッズ国際交流「ミハイ先生と英語で遊ぼう! 『Go to the English world!』」	R2.11.22	英語圏	青少年が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、外国人を講師とした講座を開催した。	受講者数8人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	中央寿大学 外国人が見た日本人「韓国編」	R2.9.9	韓国	市民が、外国の文化及び言語(韓国語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数29人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	油川寿大学・大学院 簡単な外国語をつかってみよう「英語」	R2.10.16	英語圏	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数11人
青森市	教育委員会事務局中央市民センター	東部寿大学・大学院 文化・風土・歴史を学ぼう「米 国編」	R2.12.24	英語圏	市民が、外国の文化及び言語(英語)等に触れることにより国際感覚を養う学習機会として、国際交流員を講師とした講座を開催した。	受講者数18人
青森市	教育委員会事務局文化学習活動推進課	グローバル人材育成事業	3回実施 (R2.8.4、8.6、8.11)	英語圏	外国語によるコミュニケーション能力を培うとともに、国際化に対応できるグローバルな人材を育成することを目的として、市内の小学生在がCIR・ALTとオンライン交流を行った。	児童30名、CIR1名、ALT7名
青森市	教育委員会事務局文化学習活動推進課	棟方志功賞版画展 入賞作品送付	R3.2.6~R3.2.8 (送付はR3.3)	ハンガリー(ケチケメート)、チェコ(プラハ)、中国(大連)	日本文化に対する理解促進を図るため、青少年の版画文化への理解と技術向上を目的とした版画コンクールの入賞作品を送付した。	ハンガリー(ケチケメート)40点、チェコ(プラハ)40点、中国(大連)40点
青森市	教育委員会事務局文化学習活動推進課	青森市中学校生徒海外派遣・受入事業	R2.12~R3.1	アメリカ合衆国(メーン州)	本市とアメリカ合衆国メーン州の中学校生徒によるオンライン交流会を実施した。(新型コロナウイルス感染拡大防止のためホームスライヤ体験活動は中止)	青森側22人、メーン州側16人
弘前市	スポーツ振興課	ブラジル視覚障がい者柔道強化合宿事業	R2.8	ブラジル	弘前市がブラジルのホストタウンとして登録を受けたことに関連し、ブラジル視覚障がい者柔道チームの合宿を受け入れた。新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったため、これまで親交のあった方々から応援メッセージをいただきビデオレターを作成・贈呈し、チームと交流を図った。	動画参加者145名
弘前市	りんご課 販売・発信係	弘前市・台南市果物交流事業	R2.7~R3.2	台湾	弘前市特産のりんごと台南市特産のマンゴーを相互交流し、両市の特産果実の消費拡大を図った。台湾大手百貨店企業「遠東百貨」系列12店舗と傘下スーパー7店舗にて、りんごを始めとした市特産物販売、観光PR等を行う「日本青森県弘前市文化物産フェア」を開催した。	訪台無し
弘前市	①産業育成課 物産振興係 ②りんご課 販売促進係	台湾物産展事業	①R2.11.12~ R2.11.29 ②R2.12.3~R2.12.20 ③R2.12.31~ R3.1.17	台湾	台湾遠東百貨店の12店舗(一次開催6店舗、二次開催3店舗、三次開催3店舗)で開催する「日本青森県弘前市文化物産フェア」で、当市の魅力あふれる地元生産品の宣伝紹介・展示販売を行い、台湾での認知度を向上させ、販路拡大・販売促進を図った。	新型コロナウイルス感染症の影響により、市職員および物産事業者は渡航せず、百貨店スタッフが販売した。

第2部 子ども・若者育成支援施策の実施状況

市町村名	担当部署	事業名	実施時期	対象国	事業概要	実績数値
			(期間)	(対象地域)		
弘前市	国際広域観光課 国際広域観光係	東アジア誘客プロモーション事業	通年	中国、韓国、台湾	商談会への出席および現地でのプロモーションを実施。	34名参加
弘前市	国際広域観光課 国際広域観光係	東南アジア等新規市場開拓事業	通年	東南アジア	商談会への出席および現地でのプロモーションを実施。	16名参加
弘前市	国際広域観光課 国際広域観光係	旅行エージェンツ招請活用事業	通年	各国	各種ファミツアー受入	5件28名受入
弘前市	国際広域観光課 国際広域観光係	パンフレット作成事業	随時	各国	外国人観光客を対象としたパンフレットの作成・配布	配布部数: 繁体1,600部 簡体1,350部 英語7,215部 タイ語700部 ドイツ語400部 フランス語400部
弘前市	学校指導課	英語教育推進事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、外国語教育の充実を図った。	招致13名
弘前市	学校指導課	ひろさき イングリッシュデー	R2.9.19	英語圏	市内の小学生を対象としたひろさきイングリッシュデーを開催し、ゲームや物づくり、外国人スタッフとの交流を通して、英語への関心を高めた。	参加小学生15名
八戸市	市民連携推進課	八戸国際交流協会事業補助金	通年		地域の国際化の推進母体である八戸国際交流協会の事業推進のため補助金を交付。	
八戸市	市民連携推進課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	国際交流員として外国人青年を招致し、地域の国際化推進を図る。	招致1名
八戸市	市民連携推進課	ミニポートプログラム	R2.12.15 R3.1.6	米国(オレゴン州)	米国(オレゴン州)と日本(八戸市)の太平洋両岸から無人ミニポート(GPS搭載)を3隻ずつ流し、両地域の児童がその漂流状況の観測を通じて相互交流を図るプログラム。R2年度は市内の4小中学校が絵付けした帆の完成報告会をオンラインで実施した。	
八戸市	商工課	海外販路拡大事業	①R2.10.26~28 ②R3.2.27~2.28	①ベトナム、シンガポール ②ベトナム(ホーチミン市)	①現地バイヤーとのオンライン商談会 ②現地小売店でのデモンストレーション販売(現地渡航なし)	①バイヤー8名 ②出展2社・4商品
八戸市	商工課	海外経済交流事業	通年	米国、シンガポール、中国	海外経済協力員の委嘱 米国(タコマ市・カーランド市)、シンガポール、中国(天津市、香港特別行政区、上海市)	経済協力員8名
八戸市	商工課	海外経済交流事業	通年	米国(タコマ市)	青森県八戸港と米国タコマ港との経済貿易協定令和2年6月29日に協定更新(5年後ごとの更新) ※八戸開催予定だったが新型コロナの影響により郵送手続	協定更新
八戸市	運輸管理課	運賃表示器等の多言語化	通年	英語	・種差海岸遊覧バス「ワンコインバスうみねこ号」の行先表示、運賃表示及び車内案内放送の多言語化を実施。 ・一般路線バスに多言語表示が可能なデジタル運賃表示器を順次導入。	(バス車両118台中) ・うみねこ号 2台 ・一般路線バス 81台
八戸市	教育指導課	米国ポートランドインターナショナルスクールとのオンライン交流	R2.11~	米国	児童同士のオンライン交流を実施し、異文化理解や国際理解の醸成を図る。	参加約100名
八戸市	教育指導課	「奇跡の鳥居」解説板除幕式	R3.3.6	米国	「奇跡の鳥居」に関する功績や偉業を伝えるための解説板を設置し、オンラインで米国とつなぎながら除幕式を開催。	参加約100名
八戸市	総合教育センター	国際理解教育・英語教育推進事業	通年	英語圏	外国語指導助手による小・中学生等への国際理解教育・英語教育	招致14名
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	地域で育むBOSAI力講座(外国人のための防災教室)	R2.10.18	フィリピン	同地域に居住する外国人と日本人が一緒に防災について学ぶことで、より実用的な訓練を実施し、顔の見える関係づくりのきっかけを作った。	(参加)日本人15名 フィリピン人15名
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	写真でハッピー・ハロウィンコンテスト	R2.9.18~11.8 (応募期間)	アメリカ・ヨーロッパ	異文化を体験することにより子どもたちの国際的な視野を育てることを目的に、ハロウィンに関する写真募集やハロウィンの成り立ち紹介をInstagramを活用して実施。	応募者数29名 応募枚数86枚
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	異文化理解イベント	R3.2.20	ベトナム	ベトナム文化を学習し、ベトナムに対する市民の理解を深める。初級ベトナム語講座との併催。	参加者6名 ベトナム人実習生6名
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	初級英語講座	R2.8.25~8.27(全3回)	英語圏	地域住民を対象に、初心者にも分かりやすい会話表現に重点を置いた内容の講座を開講。	日本人受講10名 米国人講師1名(CIR)
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	初級ベトナム語講座	R3.2.18~2.19(全2回)	ベトナム	地域住民を対象に、ベトナム語の初級語学講座を開講。異文化理解イベントとの併催。	日本人受講6名 ベトナム人講師1名
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	日本語講座	通年		在住外国人を対象に基礎的な日本語講座を開講。	在住外国人 受講77名
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	在住外国人の意見を聴く会	R2.7.15		生活ガイドブック、コロナ禍での生活、国際交流イベント、市からの情報発信等について、在住外国人の率直な意見を聴く会	在住外国人3名(ベトナム・中国・フィリピン)
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	外国人とのコミュニケーション講座(ベトナム編)	R2.11.27	ベトナム	外国人技能実習生を受入している企業関係者等を対象にベトナム人とのコミュニケーション講座を開催。	日本人受講9名 ベトナム人講師1名
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	米軍三沢基地新規赴任者ツアー	R2.10~R3.3	米国	米軍三沢基地新規赴任者オリエンテーションプログラムの一環である櫛引八幡宮の見学において英語ガイドを行う。	ツアー実施15回 米軍延参加者541名 延ガイド従事者78名

第2部 子ども・若者育成支援施策の実施状況

市町村名	担当部署	事業名	実施時期	対象国	事業概要	実績数値
			(期間)	(対象地域)		
八戸市	八戸国際交流協会(事務局:市民連携推進課)	観光地等英語ガイド種差トレイル英語ガイド研修	R2.10.3		ALTを招いて種差トレイルの英語ガイド研修を開催。	ALT参加者7名 ガイド参加者6名
黒石市	観光課	語学指導等を行う外国青年招致事業(CIR)	R1.7.29~	英語圏(オーストラリア)	地域の国際化推進のため、国際交流員を配置し、SNSでの情報発信やインバウンド受け入れ態勢の充実を図った。	1名
黒石市	観光課	国際交流員活用派遣事業	通年		インバウンド対応に対して、翻訳等を行った。	2回 ※コロナの影響によりキャンセルもあり
黒石市	観光課	食をとおした黒石魅力発信事業	R2.10~	オーストラリア(英語圏)	オーストラリア国内の日系企業が新たに立ち上げた、日本の食をとおした地方の魅力を発信するSNSに日本在住のオーストラリア人(JETプログラム参加者の当市のCIR)が自身で市内飲食店に取材を行い英語で記事を投稿した。(記事参照URL「backlane.net」)	記事投稿数9件
黒石市	指導課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手(ALT)として外国青年を招致し、市内小・中学校の英語教育の充実を図った。	昨年度から継続4名 ※2名は8月退職
五所川原市	観光物産課物産係	訪日外国人旅行者誘致促進事業	R2.11.26~R2.12.6 R3.2.5~R3.2.16	台湾	五所川原市産りんご及び市特産品を輸出し、現地百貨店において観光PRを兼ねた販売会を実施した。	来場者数 約14,500人
五所川原市	観光物産課物産係	津軽半島地域サイクリング推進事業	R2.4.1~R3.3.31	英語圏、韓国語圏及び中国語圏	英語圏の参加者に対応すべく、ガイド育成講座を開催したほか、外国語版(繁体字)パンフレットの作成した。併せて、データ化したパンフレット(英語版、韓国語版及び繁体字版)を作成した。	繁体字版 1,000部
十和田市	商工観光課観光係	英語版観光マップ作成	R2.9	英語圏、中国語圏(繁体字、簡体字)	外国人観光客を対象とした観光マップ(十和田湖パワースポット紹介マップ)を委託により作成(過去のもの改訂して増刷)した。	英語版 3,000部 繁体字 3,000部 簡体字 2,000部
十和田市	商工観光課観光係	ICTを活用した多言語案内表示	R2.4~R3.3	英語圏、中国語圏(繁体字、簡体字)、韓国	十和田湖及び奥入瀬渓流内の解説案内板等を委託により多言語化した(QRコードの読み取りにより当該翻訳サイトへ誘導する方式)。	36箇所×4言語(英語版、繁体字版、簡体字版、韓国語版)
十和田市	指導課指導係	語学指導等を行う外国青年招致事業	R2.4~R3.3	アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス	外国語指導助手として外国青年を招致し、小・中学校における外国語教育の充実を図った。	アメリカ2名、カナダ3名、オーストラリア1名、イギリス2名
十和田市	指導課指導係	国際教育支援事業	R2.4~R3.3	アメリカ、カナダ	小学校で行われるクラブ活動及び外国語活動・外国語科の授業に講師を派遣し、授業を支援した。	地域に住むアメリカ人1名、カナダ人1名
十和田市	指導課指導係	国際教育支援事業	R2.12.12	アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス	イングリッシュ・デイ in Towada市立小・中学校の児童生徒を対象に、一日の生活のほとんどを英語で行う「英語漬け体験」をALTと協力して実施した。	アメリカ2名、カナダ3名、オーストラリア1名、イギリス2名
三沢市	国際交流課	姉妹都市交流事業	R2.6.13~7/10 R2.11.5~12.25	アメリカ ワシントン州(ウェナッチバレー)	親善使節団(一般公募の中学生及び大人)の相互訪問を通じて、各都市間の相互理解と良好な関係の継続を図る。令和2年度は使節団の派遣及び受入は中止となったが、メッセージ動画の交換により交流を重ねた。	メッセージ動画交換個人・団体の32件が参加
三沢市	産業観光課	小川原湖湖水まつり	7月第3日曜日			【中止】
三沢市	学校教育課	三沢市中学生イングリッシュキャンプ	R2.8.3		国際社会で活躍できる人材育成事業として、三沢市の地域特性を活かし、英語教育の充実とコミュニケーション能力向上を目的に実施。	参加者42名
三沢市	国際交流課	ウェナッチバレーカレッジ英語研修派遣	8月初旬から12日間	アメリカ ワシントン州(ウェナッチバレー)	三沢市とウェナッチバレーとの姉妹都市交流を基盤とし、国際感覚の醸成と語学に対する向上心の涵養を図り、次代を担うグローバル人材の育成及び将来にわたる姉妹都市関係のさらなる発展を図るため、ウェナッチバレーカレッジでの英語研修プログラムに三沢市の高校生を派遣。	【中止】
三沢市	産業観光課	ビデオジャパンデー	R2.8.8	米軍三沢基地内	基地内にいる米軍人、家族、軍属関係者に対して、日本文化紹介を通じて日米間の人的・文化的交流を促進するとともに、更なる相互理解を図る。	—
三沢市	産業観光課	三沢まつり	8月下旬		参加山車組において、米国人の参加を受け入れているところが多く、日米の文化交流として寄与。	【中止】
三沢市	産業観光課	三沢国際サマーフェスティバル	8月下旬		三沢まつり中日に併催される「みこし祭り」であり、国際交流を図るとともに、市の文化と産業の振興に寄与。	【中止】
三沢市	学校教育課	英語教育推進事業	R2.8.24~R3.3.31	アメリカ	三沢市内全小学校1~6学年全クラスへ英語指導助手(AET)を派遣し、英語教育の充実を図ることを目的に実施。	2名、年間146回派遣
三沢市	政策調整課	車いすラグビーカナダ代表チーム事前キャンプ(ホストタウン事業)	R2.8.26	カナダ	東京2020大会に出場する車いすラグビーカナダチームとのオンライン交流を実施。三沢市から市長のほかカナダチームに手作りマスクを送った障がい者就労支援事業所の代表者などが参加。カナダチームのほか、日本・カナダ両国のオリパラ担当大臣、カナダパラリンピック委員会関係者などが参加。併せて、延期となった東京パラリンピック大会の事前キャンプに関する合意書の締結も行った。	オンライン交流参加者約30人
三沢市	産業観光課	MISAWA BBQジャンボリー	10月初旬		三沢のBBQ文化を広く紹介するとともに、参加型イベント等を開催。	【中止】
三沢市	産業観光課	ハロウィンフェスタ IN MISAWA	10月中旬		様々なコスチュームに身を包んだ日米の参加者が商店街を練り歩き、相互交流を楽しみながら、併せて商店街の活性化に寄与。	【中止】
三沢市	産業観光課	ビデオアメリカンデー	R2.11.7		米軍基地内紹介ビデオをケーブルテレビを活用し、市内で放送。	—

第2部 子ども・若者育成支援施策の実施状況

市町村名	担当部署	事業名	実施時期	対象国	事業概要	実績数値
			(期間)	(対象地域)		
三沢市	国際交流課	あおもりグローバルアカデミー	R2.10.31～11.1 R2.11.21～11.22 R2.12.12～12.13		国内外のグローバル化の流れが急速に進展する中、それに対応し、世界的な視野を持ってチャレンジしていく若い人財の育成を目的として青森県と共同開催。	受講者27名中 27名修了
三沢市	学校教育課	三沢市小学生ジュニアイングリッシュデイ	R3.1.7		三沢市在住の外国人小学生や外国語指導助手との交流活動を通し、参加者が英語を使って楽しくコミュニケーションを図ることを目的に実施。	参加者18名
三沢市	市民スポーツ課	ニュースポーツフェスティバル	3月中旬開催	三沢米軍基地	国際都市を標榜する当市の特色を生かし、子供たちの冬期間の交流の場として、スポーツを通じて友好を深めることを目的として開催。	【中止】
三沢市	産業観光課	フレンドシップツアー	通年(月1回) ※9月除く	三沢米軍基地内	米軍バスによる基地区域内施設見学ツアーを実施。(約3時間)	【中止】
三沢市	学校教育課	外国青年招致事業	通年	アメリカ ワシントン州	外国語指導助手(ALT)として外国青年を招致し、市内小学校及び中学校における英語教育の充実を図ることを目的に実施。	招致1名、 年間計146回派遣
三沢市	学校教育課	国際理解教育事業	通年	スペイン	三沢市内全小学校における国際理解教育へ外国人講師を派遣し、異文化理解を通して、自国文化の理解と愛国心の育成を図ることを目的に実施。	1名、年間44回 小学校各校へ派遣
三沢市	学校教育課	日米交流推進事業	通年	三沢米軍基地内小学校	三沢市内全小学校を対象として、日米の国際理解教育による異文化理解と英語による交流の充実を図ることを目的に実施。	【中止】
三沢市	国際交流課	異文化理解教育講座	通年	米軍人・家族 軍関係者	三沢に赴任した米軍人とその家族に対して日本の文化及び風俗習慣並びに市内公共施設紹介を通じて地域及び日本に対する理解を深める。	(4月～8月中止) 参加者664名
三沢市	国際交流課	語学講座	通年(1～3期)		各種語学講座を実施。(英会話、英文法、日本語等)	年146回 受講者延べ684名
むつ市	企画調整課	国際交流推進事業	通年	アメリカ	市内在住の米国籍所有者で、国際交流業務に必要な知識・経験、技能を有する国際交流推進員として委嘱し、国際交流事業の展開を図った。	委嘱2名(JET1名)
平川市	教育委員会指導課	語学指導を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致1名
平川市	教育委員会指導課	イングリッシュキャンプ	R2.12.19	英語圏	外国語指導助手(ALT)等と交流しながら、英語による様々な活動を行うことにより、英語に対する興味関心を高め、英語によるコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際感覚を養う。	ALT1名 参加小学生2名、中学生6名
外ヶ浜町	教育委員会学務課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致2名
藤崎町	学務課	中学生国際WEB交流事業	R2.11～R3.3	シンガポール	シンガポール(JWSS)の学生とオンラインディスカッションを行い、異文化を体験し、豊かな国際感覚を身につけた。	10名
板柳町	教育委員会学務課	語学指導等を行う外国青年招致事業	R2.4～R3.3	英語圏	国際化に対応した行政施策の推進及び語学教育の充実を図るため、外国語指導助手(ALT)を招致。	ALT1名
鶴田町	企画観光課、 教育委員会	語学指導等を行う外国青年招致事業	R2.4～R3.3	英語圏	国際交流員及び外国語指導助手を招致し、英語教育並びに国際交流の推進を図る。	招致2名
鶴田町	企画観光課	姉妹都市からの外国青年招致事業	R2.4～R3.3	アメリカ (フッドリバー市)	姉妹都市から国際交流員を招致し、英語教育並びに国際交流の推進を図る。	招致1名
中泊町	総合戦略課	にほんごカフェin中泊	R2.12～R3.3	ベトナム	町在住の技能実習生を対象とした日本語教室を開催した。	参加生徒18名 (講師等5～8名)
七戸町	教育委員会生涯学習課	イングリッシュデイ	R2.9.21		小学生が収穫体験を通して外国人講師から野菜の名前、色、形、大きさ、数などを英語で学んだほか、実践的な会話を練習しコミュニケーションを図る意欲を高めた。	参加者14名(小学生)
おいらせ町	学務課	語学指導等を行う外国青年招致事業	R2.4～R3.3	英語圏	外国語指導助手として外国人青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致2名 (7月中旬までは3名)
三戸町	教育委員会	語学指導等を行う外国人青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致又は直接採用し、町内小中学校での英語教育の充実を図った。	招致1名、採用1名
三戸町	教育委員会	オンライン留学事業	R3.1.5～1.7	英語圏	フィリピンの語学学校であるCNEIが行っている「マンツーマンのオンライン英会話」「オンラインスタディツアー」、「オンライン国際交流プログラム」を受講し英語によるコミュニケーション能力向上、外国の生活習慣や文化に触れることによる視野の拡大と国際意識の向上を図るもの。(CNEIはフィリピンの語学学校。三戸町が包括連携協定を締結している八戸学院大学のグループ企業「株式会社八戸学院グループ」にCNEIに日本窓口がある。)	児童 6名 生徒 7名 計 13名
五戸町	教育課	語学指導等を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	3名
田子町	政策推進課	ギルロイ市友好青年招致事業	R2.4.1～R2.4.30	アメリカ (ギルロイ市)	国際交流推進員として姉妹都市から招致、町民との友好親善を図った。	招致1名
田子町	政策推進課	語学指導を行う英語指導員採用	R2.8.1～R3.3.31	英語圏	英語指導員として外国青年を採用、英語教育の充実を図った。	採用1名
田子町	教育委員会	語学指導を行う外国青年招致事業	R2	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致、英語教育の充実を図った。	招致1名
田子町	政策推進課	田子高校オンライン交流授業	R2.9.10	アメリカ (ギルロイ市)	田子高校生9名とギルロイ市の高校生8名がオンラインによる交流を行った。	高校生ほか 計23名参加

市町村名	担当部署	事業名	実施時期	対象国	事業概要	実績数値
			(期間)	(対象地域)		
田子町	教育委員会	田子中学校オンライン国際交流会	R2.12.17	アメリカ (ギルロイ市)	田子中学生がギルロイ市のホストファミリー8家族とオンラインによるホームビジット交流を行った。(海外派遣事業中止に伴う代替事業として実施)	中学生39名参加
田子町	政策推進課	国際理解図書展示・貸出	R2.9.25～R2.10.21	—	姉妹都市以外にも世界の国々の文化や言葉、習慣などを学ぶ機会として、図書を展示・貸出。	展示図書49冊
田子町	政策推進課	町民外国語講座	R2	—	町民を対象とした外国語講座を実施。 (英会話教室)	計43名受講
田子町	政策推進課	田子町国際交流推進事業費助成	R2	—	田子町にんにく国際交流協会へ助成金交付	—
南部町	学務課	外国語指導助手派遣事業	R2	英語圏	外国語指導助手として町内の小中学校に講師を派遣し、英語教育の充実を図った。	派遣3名
南部町	交流推進課	国際グリーンツーリズム情報発信事業	R2.6.2～	英語圏	外国人観光客を対象としたチラシの作成・配布	作成枚数 600枚 配布枚数 600枚
階上町	教育課	語学指導を行う外国青年招致事業	通年	英語圏	外国語指導助手として外国青年を招致し、英語教育の充実を図った。	招致2名

資料:誘客交流課

第2節 科学技術に精通した人材等の育成

1 理数教育の推進（スーパーサイエンスハイスクール）

(1) スーパーサイエンスハイスクールについて

文部科学省では、科学技術、理科・数学教育に関する教育課程等の研究開発を行う高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定し、先進的な理数教育を通して、生徒の科学的能力及び技能並びに科学的思考力、判断力及び表現力を培い、将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図ることとしている。

この事業は平成14年度からスタートし、本県においては県立八戸北高等学校が平成17～21年度及び平成22～26年度の2期、県立三本木高等学校が平成22～26年度の1期指定を受け、本県の理数教育を牽引してきた。現在は、県立弘前南高等学校が平成28年度、県立青森高等学校が平成29年度に指定され、全国では約200校が指定されている。

(2) 指定校の取組

ア 県立弘前南高等学校

「科学教育プロジェクト～地域に学び社会に貢献する科学技術人材の育成～」をテーマとし、全生徒を対象に地域の科学資源を題材とした探究活動を行っている。SSHコースでは課題研究を通して、科学倫理を理解しながら実験の技能・技術を身に付けるとともに、科学的な思考力、実践力を高め、さらに、科学英語を読み、実際に活用することで、国際的な視野を持った科学技術人材の礎を築くことを目的として実施している。

イ 県立青森高等学校

「学際的研究により新たな価値を創出できる国際的な科学技術系人材の育成」をテーマとし、課題研究を中核として、専門家の支援・協力のもと、科学的な能力・科学的思考力を伸長する教育プログラムを開発するとともに人文・社会科学的視点からの考察を加え、企業・行政・NPOなど様々なステークホルダーとの対話・協働を進め、課題研究の成果を上げる取組を通して、多面的な考察力と新たな価値を創出する力を育成することを目的として実施している。

(3) 県教育委員会の取組

それぞれの指定校に対し、専門的見地から指導、助言に当たる運営指導委員会を設け、年2回実施している。SSH指定校は県内における理数教育を牽引する存在として位置付けており、先進的な実践例は各種事業、研修会等において紹介し、普及・啓発を図っている。

第3節 地域づくりで活躍する若者の応援

1 地域づくりで活躍する若者の育成

県教育委員会では、高校生等の若者が、県内各地で活躍する地域活動者の手法を学び、それを手本として、主体的に地域活動の企画・実践を行うことにより、若者の自己有用感及び地域愛を育み、県内定着の促進を図る仕組みを構築する「地域の思いをつなぐ」若者育成事業を令和3年度から令和4年度まで行う。

(1) 若者と地域活動者によるワールドカフェ

令和3年度は、地域活動者と地域の若者によるワールドカフェを県内6地区で各2回開催した。

- ・ 1回目（一人一人の思いを語り、広げる場【思いの拡散】）
- ・ 2回目（一人一人の思いをつなげる場【思いの集約】）

第2-6-7表 若者と地域活動者によるワールドカフェ実施状況（令和3年度）

地区	1回目	2回目
東青	6月27日(日)県総合社会教育センター 参加者 大人18名 高校生6名	7月25日(日)県立図書館 参加者 大人15名 高校生5名
西北	6月12日(土)五所川原市民学習情報センター 参加者 大人15名 高校生33名	7月17日(土)五所川原市民学習情報センター 参加者 大人11名 高校生17名
中南	6月13日(日)弘前オランダ 参加者 大人17名 高校生9名	7月18日(日)弘前市民会館 参加者 大人14名 高校生5名
上北	7月4日(日)十和田市南コミュニティセンター 参加者 大人12名 高校生19名	8月1日(日)十和田市南コミュニティセンター 参加者 大人18名 高校生7名
下北	7月3日(土)下北文化会館 参加者 大人19名 高校生5名	7月31日(土)下北文化会館 参加者 大人13名 高校生17名
三八	6月26日(土)八戸市公民館 参加者 大人13名 高校生18名	7月24日(土)八戸市公民館 参加者 大人11名 高校生9名

資料：生涯学習課

(2) 若者と地域活動者による課題解決活動の企画・実践

ワールドカフェを経て、具体化された取組を行うため、地域の若者と地域活動者による地域課題解決活動の企画及び実践を行う。（県内6地区で2団体合計12団体の予定）

令和3年度末には、他の団体の取組事例を学び、次年度の活動に生かすため、オンラインによる意見交換会を開催する。

(3) 活動成果の発表・周知

令和4年度に、活動成果発表会及び活動事例集の作成を行う。

第4節 国際的に活躍できる次世代競技者の育成

1 本県の競技力の現状

本県の競技力向上の目安となる国民体育大会における男女総合成績の順位は、近年、低下傾向にあり、過去5年をみると、平成29年は30位台に回復したものの、概ね40位台が続いている。

第2-6-8表 国民体育大会における本県の種別獲得得点の推移（70～74回大会／競技得点のみ）

回数	年 (平成・令和 /西暦)	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子	合計 天皇杯順位
70回大会	H27	121.5	41.5	116.5	43.0	322.5
	2015	163.0		159.5		40位
71回大会	H28	85.0	50.0	165.5	59.0	359.5
	2016	135.0		224.5		40位
72回大会	H29	194.5	32.0	167.5	33.5	427.5
	2017	226.5		201.0		35位
73回大会	H30	87.0	44.0	132.5	39.0	302.5
	2018	131.0		171.5		42位
74回大会	R1	73.5	48.0	89.5	83.0	294.0
	2019	121.5		172.5		45位

※75回大会(R2)については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止(R5に延期)

資料：スポーツ健康課

この原因としては、国民体育大会での獲得得点のうち6～7割を占めていた少年男女の成績が低下していることなどが考えられ、2026年に本県で開催予定の第80回国民スポーツ大会をはじめとした全国大会はもとより、国際的に活躍できる次世代競技者の育成が急務である。

また、世界で活躍できるトップアスリートになるためには、専門的な技能はもとより、世界のスポーツ情勢や最新のスポーツ医・科学情報、メンタルマネジメントや栄養学等、様々な知識や能力が必要とされるため、ジュニア期から、こうした分野に触れる機会を増やすことも重要である。

2 国際大会や全国大会で活躍できるジュニア選手の発掘・育成・強化

本県では、第80回国民スポーツ大会の本県開催を見据え、平成29年度に青森県競技力向上対策本部を設置し、平成30年1月に策定した「青森県競技力向上基本計画」に基づき、将来有望なジュニア選手を輩出するため、高い能力を有する小学生を県内から選抜し、日本スポーツ振興センター、日本スポーツ協会、青森県スポーツ科学センター、県内競技団体等と連携した各種育成プログラムを実施する「あおもりスポーツアカデミー事業」を実施している。

(1) 事業の趣旨・目的

国民体育大会をはじめとする全国大会や世界大会での活躍が期待できる、将来有望なジュニア選手を輩出するため、高い能力を有する小学生を県内全域から発掘するとともに、関係競技団体等と連携し、スポーツ医・科学を活用した本県独自の各種育成プログラムを実施する。

(2) 実施内容

ア 発掘プログラム

青森県内に住む小学校4年生、6年生を対象に選考会を実施し、運動能力が高く優れた素質を有する選手、または体格等に優れた選手を発掘する。

(ア) 一次選考会

小学校で行われる新体力テスト総合A判定の児童の中から、県内3会場で運動能力測定を実施し、その結果により各学年30名程度を選考する。

第2-6-9表 令和2年度発掘プログラム一次選考会実施状況

開催日	開催地	会場	測定内容	参加者数	
				4年生	6年生
10月31日(土)、11月1日(日)	八戸市	八戸市体育館	①身長・体重、②立ち幅跳び、③立ち三段跳び、④20m走、⑤メデイシンボール前投げ、⑥反復横跳び、⑦長座体前屈、⑧10mシャトルラン	137名 (42名)	98名 (39名)
11月7日(土)、8日(日)	青森市	マエダアリーナ			
11月28日(土)	藤崎町	スポーツプラザ藤崎			

※カッコ内は一次選考通過者数

資料：スポーツ健康課

(イ) 二次選考会

一次選考通過者に対し、保護者も含めた面談を実施し、本人の意思(保護者の意向)・健康状況等の確認を行う。

第2-6-10表 令和2年度発掘プログラム二次選考会実施状況

開催日	開催地	会場	参加者数	
			4年生	6年生
※新型コロナウイルス感染拡大の影響により、個別面談を中止とし、書面にて実施			42名 (40名)	36名 (34名)

※カッコ内は二次選考後、確定した令和3年度あおもりスポーツアカデミー生(小5、中1)数

資料：スポーツ健康課

イ 育成プログラム

発掘プログラムによって選考した選手を対象に、スポーツ医・科学を活用した講義・トレーニングや、多競技種目の体験など、発達段階に応じた独自の育成プログラムを実施する。

(ア) 共通プログラム(1回)

スポーツ医・科学の活用やトップアスリートによる講義・トレーニングなど、発達段階に応じた独自の育成プログラムを実施する。

第2-6-11表 令和2年度共通プログラム実施状況

開催日	会場	実施内容
9月12日(土) (小学生、中学生合同開催)	マエダアリーナ	①トップアスリートプログラム 講演「トップアスリートを目指して～あおもりから全国そして世界～」 講師：女子7人制・15人制ラグビー元日本代表 弘前サクラオーバルズ選手兼コーチ兼アドバイザー 中嶋亜弥氏 ②身体能力開発プログラム 「コーディネーショントレーニング」 講師：(一社)BLUE ties Impression 代表理事 川戸元貴氏 ③医・科学サポートプログラム 「栄養・食生活サポート」 講師：日本スポーツ協会公認スポーツ栄養士 米谷瑞紀氏

資料：スポーツ健康課

(イ) 競技プログラム(年2回2競技)

競技団体等の優秀な指導者のもとで多競技種目を体験し、自らの得意な能力を理解しながら将来を見据え、自己の適性に合った競技種目を選択できる能力を育成する。

第2-6-12表 令和2年度競技プログラム実施状況

開催日	実施競技	会場
12月20日(日)	ウエイトリフティング	カクヒログループアスレチックスタジアム 室内練習場(青森市)
1月31日(日)	なぎなた	青森県武道館(弘前市)

資料：スポーツ健康課

(ウ) ジャパン・ライジングスタープロジェクト「エントリー会」

日本スポーツ振興センターが主催する全国の将来性豊かなタレント(4期生：オリンピック競技)を発掘するためのプログラムに参画し、当事業アカデミー生を対象として、所定の運動能力測定等を実施。

第2-6-13表 令和2年度ジャパン・ライジングスタープロジェクト「エントリー会」実施状況

開催日	会場
12月20日(日)	カクヒログループアスレチックスタジアム室内練習場(青森市)

資料：スポーツ健康課

ウ 選択プログラム

小学校6年生・中学校3年生を対象に、中学校・高等学校進学以降にトップアスリートを目指す可能性のある最適な競技種目を選択できるよう、対象児童生徒・保護者と面談しアドバイスをを行う。

第2-6-14表 令和2年度選択プログラム実施状況

開催日	開催地	会場	参加者数	
			小6	中3
1月9日(土)	※電話による対応		/	1名
1月24日(日)	おいらせ町	おいらせ町東公民館		1名
2月11日(土)	青森市	青森県庁		1名
3月13日(土)	青森市	マエダアリーナ	6名	/
3月14日(日)	八戸市	YSアリーナ八戸	4名	

資料：スポーツ健康課

